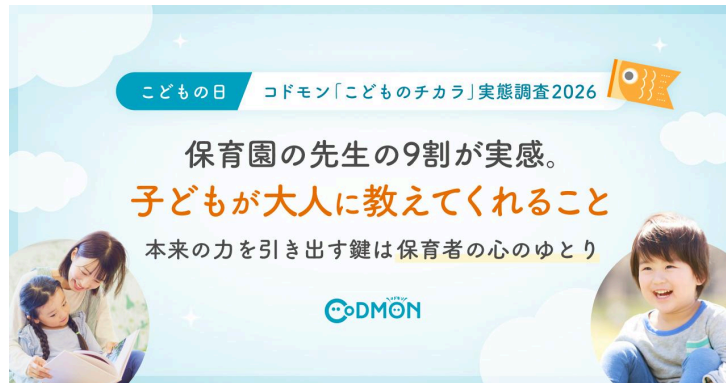


別紙資料

コドモン「こどものチカラ」実態調査2026



調査概要

- 調査期間 | 2026年3月17日～3月31日
- 調査手法 | インターネット調査
(コドモン利用施設職員、および外部調査パネルを利用した現役保育者へのアンケート)
- 調査対象 | 保育施設、認定子ども園、幼稚園などの子ども施設に勤務している保育者
- 有効回答数 | 404名
内訳: 経営者20名 / 園長・施設長101名 / 副園長・主任66名 / 担任94名 / その他123名
経験年数: 20年以上 113名 / 10～19年 99名 / 4～9年 105名 / 1～3年 70名 / 1年未満 17名

要点

- 9割以上の保育者が、この1年で子どもから「教わった・ハッとさせられた」経験を持つ
- 子どもから見習いたい力の1位は「常識にとらわれない発想力」(39.6%)
- 8割以上が子どもの力を引き出すために保育者自身の「心のゆとり」が必要と回答

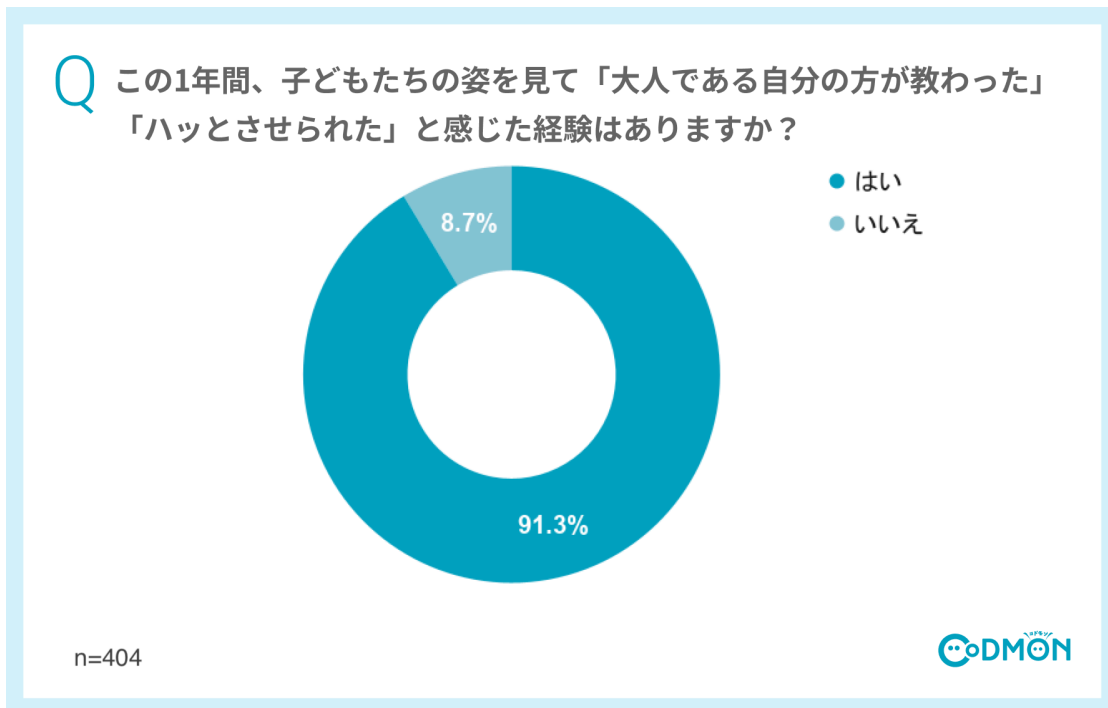
※本調査は、コドモン利用施設および全国の保育現場で働く職員を対象に、本来の子どもの力と保育者の心のゆとりとの関係性の実態を探ることを目的に実施しました。

第一部: 大人が学ぶ「こどものチカラ」

この1年間で「子どもを見て、大人である自分の方が教わった・ハッとさせられた」と回答した保育者は91.3%(369名)に上りました。保育とは大人から子どもへの一方向の関わりだけにとどまらず、子どもが大人に気づきや学びをもたらす、双方向の関係でもあることがうかがえます。こうした関係性は、ビジネスの世界で若手が上司を指導する「リバースメンター※1」になぞらえることができ、保育現場においても広く存在することが今回の調査で示されました。

調査では「子どもの姿から、大人が特に見習いたいと感じる力は何か」についても保育者に聞きました(複数回答)。上位には「常識にとらわれない発想力」(39.6%)、「好きなことに没頭する力」(33.7%)、「今この瞬間を全力で楽しむ力」(25.7%)が並び、現代の大人が忙しさの中で手放しがちな力が上位に挙がる結果となりました。

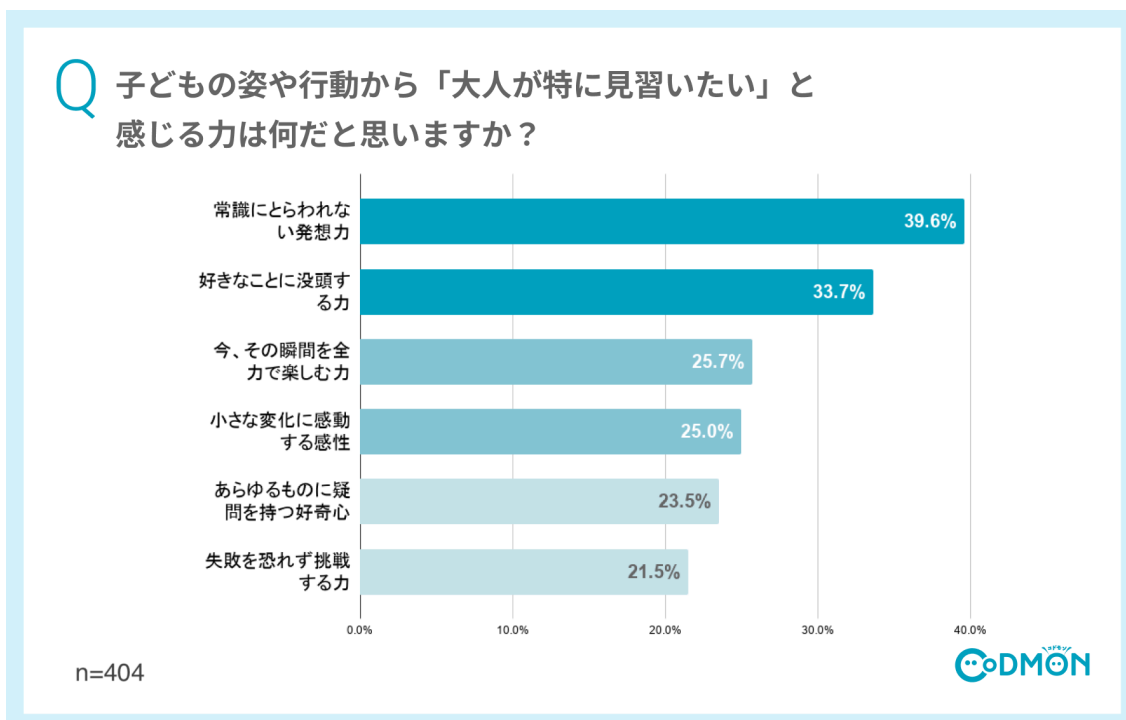
【1】子どもから教わった経験



Q.この1年間、子どもたちの姿を見て「大人である自分の方が教わった」「ハッとさせられた」と感じた経験はありますか？

- はい: 369 (91.3%)
- いいえ: 35 (8.7%)

【2】大人が見習いたい子どもの力



Q.子どもの姿や行動から「大人が特に見習いたい」と感じる力は何だと思いますか？（複数回答）

- 常識にとらわれない発想力: **160 (39.6%)**
- 好きなことに没頭する力: **136 (33.7%)**
- 今、その瞬間を全力で楽しむ力: **104 (25.7%)**
- 小さな変化に感動する感性: **101 (25.0%)**
- あらゆるものに疑問を持つ好奇心: **95 (23.5%)**
- 失敗を恐れず挑戦する力: **87 (21.5%)**
- 自分を信じる自己肯定感: 70 (17.3%)
- 誰とでも仲良くなれる力: 61 (15.1%)
- 純粋な助け合いの力: 56 (13.9%)
- 相手に寄り添う共感力: 44 (10.9%)
- 感情を切り替えられる柔軟さ: 27 (6.7%)
- 最後までやり抜く力: 20 (5.0%)
- 非を認め、素直に謝る力: 17 (4.2%)
- あてはまるものはない: 7 (1.7%)

▼ 保育者が「子どもから教わった」エピソード

●「きれいにしてくれてありがとうだね」

「季節の中で花が咲いたり虫がいたり葉の色が変わったり雪が降ったりするその一つ一つに『どうして？』『なんでなの？』と疑問を持つ姿。『神様がやってるの？』『誰かが色を変えてくれてるの？』と大人の常識の範囲外の答えを考えている。『きれいにしてくれてありがとうだね』『またどんぐり落としてください』など、自然に対して感謝の気持ちを持っている。子ども独自の世界観の中で、培われた感性から出てくる言葉があると感じる。」（認可保育所/担任/保育経験10～19年）

●「ブドウ味のりんご」

「制作活動で果物の絵に色を付けさせた時、りんごを紫に塗り『ブドウ味のりんご』と言っていた。固定観念で決まった色を勧めようとした自分が、常識にとらわれていたと気づかされた。」（認定こども園/園長/保育経験4～9年）

●「ママ、絶対来てくれるからね」

「泣いている1歳児のそばに3人の2歳児が寄り、『大丈夫だよ！ママ、おやつが終わったら来てくれるからね』『絶対来てくれるからね』と声をかける子、背中をトントンする子、ティッシュで涙を拭く子。自分より幼い子に視線を合わせ、寄り添う姿に感動した。（小規模保育所/園長・施設長/保育経験10～19年）

●「いないと困るでしょ？」

「発表会の劇の練習で、女の子の役の子が欠席。すると『やってもいいよ』と男の子のSくんが代役を買って出てくれました。『どうして代役をやってくれたの？』と聞くと『だって、いないと困るでしょ！？』と一言。子どもたちの中から自然に拍手喝采が起こりました。責任感とそれを称える拍手に、子どもたちの成長を感じた瞬間でした。」（認定こども園/担任/保育経験20年以上）

●「読んでほしいの？」

「延長保育の時、0歳児が年長の男の子のそばに行って絵本を見せた。男の子はブロックで遊んでいたが、『読んでほしいの？』と声をかけ、読み聞かせを始めた。自分の遊びは後回しにした姿を見て、心の成長を感じた。それから毎日、0歳児の相手をしている姿を見かけるたび、温かい気持ちになる。」（認定こども園/園長・施設長/保育経験20年以上）

●「見て、ピカピカになったよ！」

「泥だんごをはじめは丸くすることを楽しんでいましたが、そのうちにピカピカにすることに没頭。納得のいく泥だんごができると、周囲に喜びを伝え達成感を味わっていた。今度は下の子にもコツを教える姿が見られるようになり、こうやって子どもたちの技術は受け継がれていくのだと感心した。」(認定こども園/担任/保育経験20年以上)

※1リバースマンター:若手や部下が上司を指導するビジネス用語。ここでは上記の事例のような子どもから大人が学びを得る関係性を指しています。

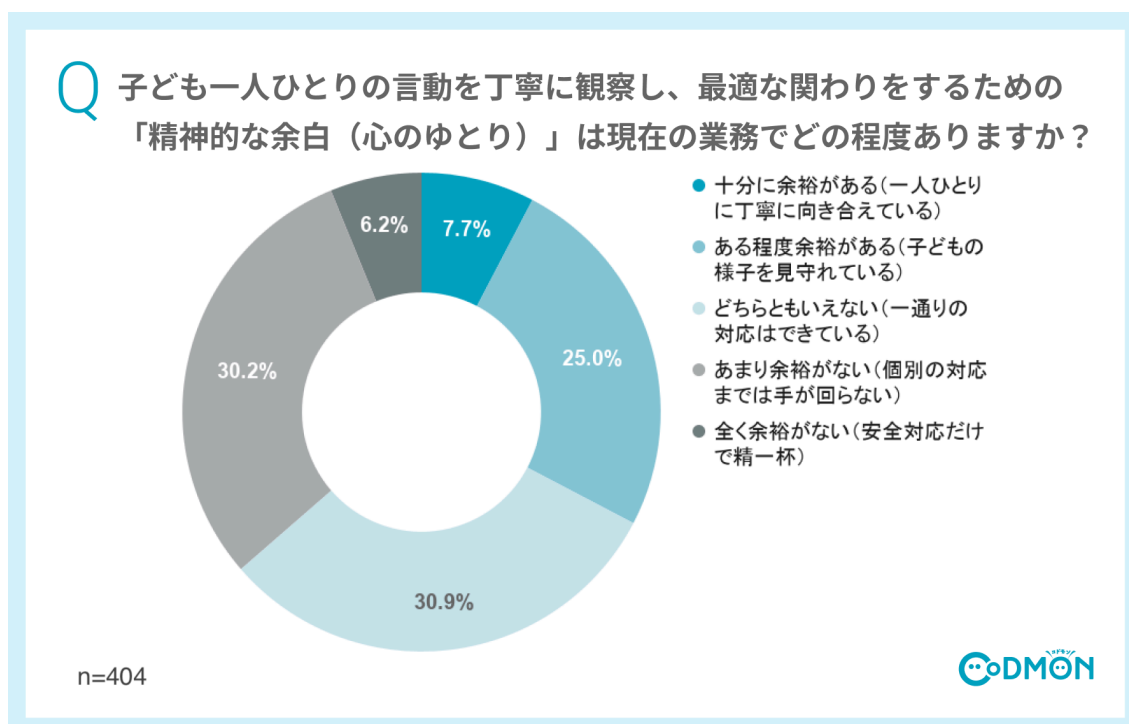
第二部:保育者の「心のゆとり」実態

保育を受け持つ保育者自身の「心のゆとり」については、1年前と比べ「ゆとりが増えた」と回答した保育者は50.7%と半数を超えました。保育環境の改善が、現場の実感として着実に広がっていることがうかがえます。

また、現在「余裕がある」と感じている保育者は32.7%に上りました。一方で、現在も約36.4%が余裕を感じにくい状況にあり、現場によって負担感に差があることも示されました。

最近の保育でできるようになったこととしては、「子どもの行動を急かさずに待つ(19.3%)」「先生同士で子どもの成長を語り合う(18.3%)」が上位に挙げられ、保育者一人ひとりが日々の保育の中で質の向上に努めていることがわかります。

【3】保育者の「心のゆとり」指数

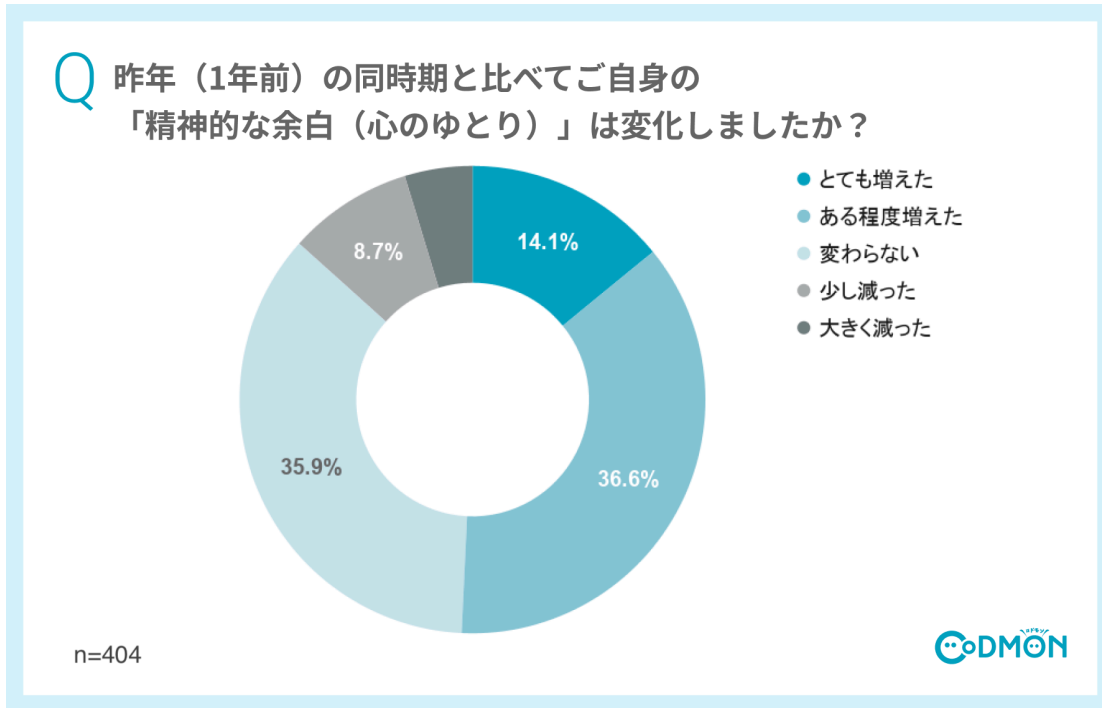


Q.子ども一人ひとりの言動を丁寧に観察し、最適な関わりをするための「精神的な余白(心のゆとり)」は、現在の業務の中でどの程度ありますか？

- 十分に余裕がある(一人ひとりに丁寧に向き合えている): 31 (7.7%)
- ある程度余裕がある(子どもの様子を見守れている): 101 (25.0%)

- どちらともいえない(一通りの対応はできている): 125 (30.9%)
- あまり余裕がない(個別の対応までは手が回らない): 122 (30.2%)
- 全く余裕がない(安全対応だけで精一杯): 25 (6.2%)

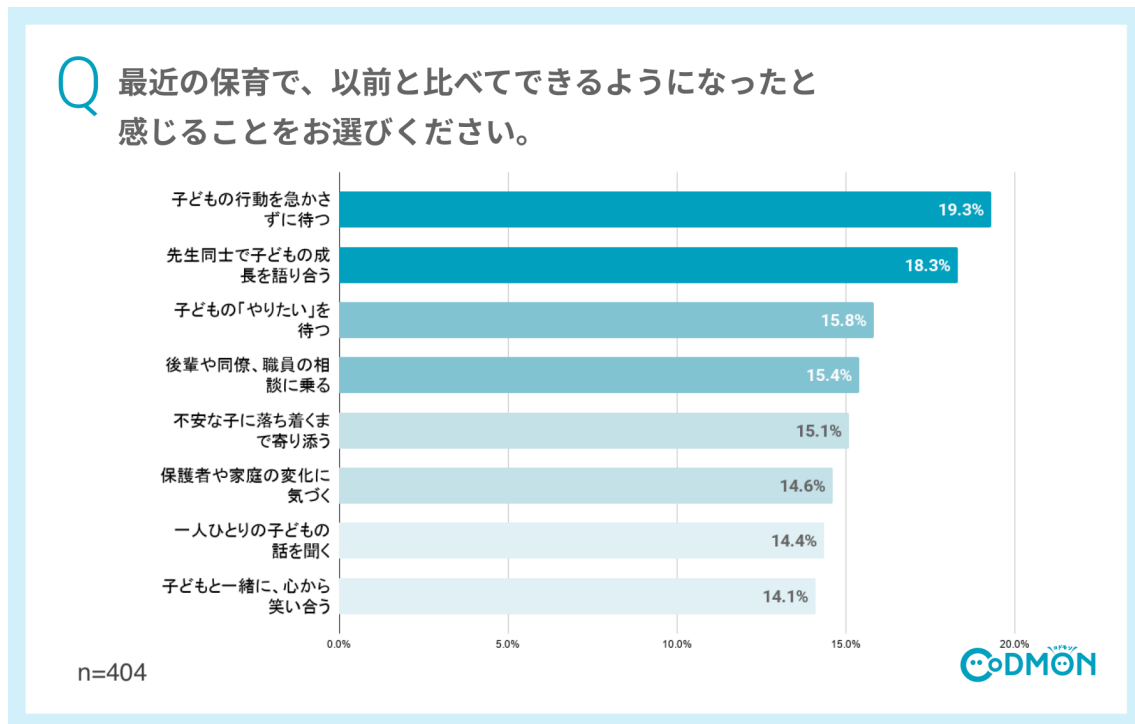
【4】保育者の「心のゆとり」の変化量



Q.昨年（1年前）の同時期と比べてご自身の「精神的な余白（心のゆとり）」は変化しましたか？

- とても増えた: 57 (14.1%)
- ある程度増えた: 148 (36.6%)
- 変わらない: 145 (35.9%)
- 少し減った: 35 (8.7%)
- 大きく減った: 19 (4.7%)

【5】以前と比べてできるようになったこと



Q.最近の保育で、以前と比べてできるようになったと感じることをお選びください。(複数回答)

- 子どもの行動を急かさずに待つ: 78 (19.3%)
- 先生同士で子どもの成長を語り合う: 74 (18.3%)
- 子どもの「やりたい」を待つ: 64 (15.8%)
- 後輩や同僚、職員の相談に乗る: 62 (15.4%)
- 不安な子に落ち着くまで寄り添う: 61 (15.1%)
- 保護者や家庭の変化に気づく: 59 (14.6%)
- 一人ひとりの子どもの話を聞く: 58 (14.4%)
- 子どもと一緒に、心から笑い合う: 57 (14.1%)
- 子どもの小さな変化に気づく: 56 (13.9%)
- 子ども同士のけんかを見守る: 46 (11.4%)
- 保育の進め方を振り返る: 45 (11.1%)
- 興味に合わせた遊びの準備や工夫をする: 44 (10.9%)
- 保育について深く学ぶ時間を作る: 43 (10.6%)
- 園内の安全チェックを丁寧に行う: 39 (9.7%)
- 絵本を「もう一冊」読む: 35 (8.7%)
- 特に変化はない(以前とあまり変わらない): 34 (8.4%)
- その日の様子を詳しく保護者に伝える: 30 (7.4%)
- あてはまるものはない: 9 (2.2%)

■ゆとりの差が、保育の質に影響

調査では、一年前と比べてゆとりが「増えた」と回答した保育者(205名)のうち、ゆとりの度合いによってできるようになった保育内容に違いが見られました。一定のゆとりがある状態では子どものペースを尊重する「待つ保育」が可能になり、さらに十分なゆとりがある状態では「不安な子どもが落ち着くまで寄り添う」といった、より子どもの自主性を尊重する関わりが実現されることが示されました。

【6】ゆとりが「増えた」層ができるようになったこと(※クロス集計)

▼ ゆとりが「とても増えた」層(n=57名)

- 1位 | 不安な子に落ち着くまで寄り添う(22.8%)
- 2位 | 子どもの行動を急かさずに待つ(21.1%)
- 2位 | 先生同士で子どもの成長を語り合う(21.1%)

▼ ゆとりが「ある程度増えた」層(n=148名)

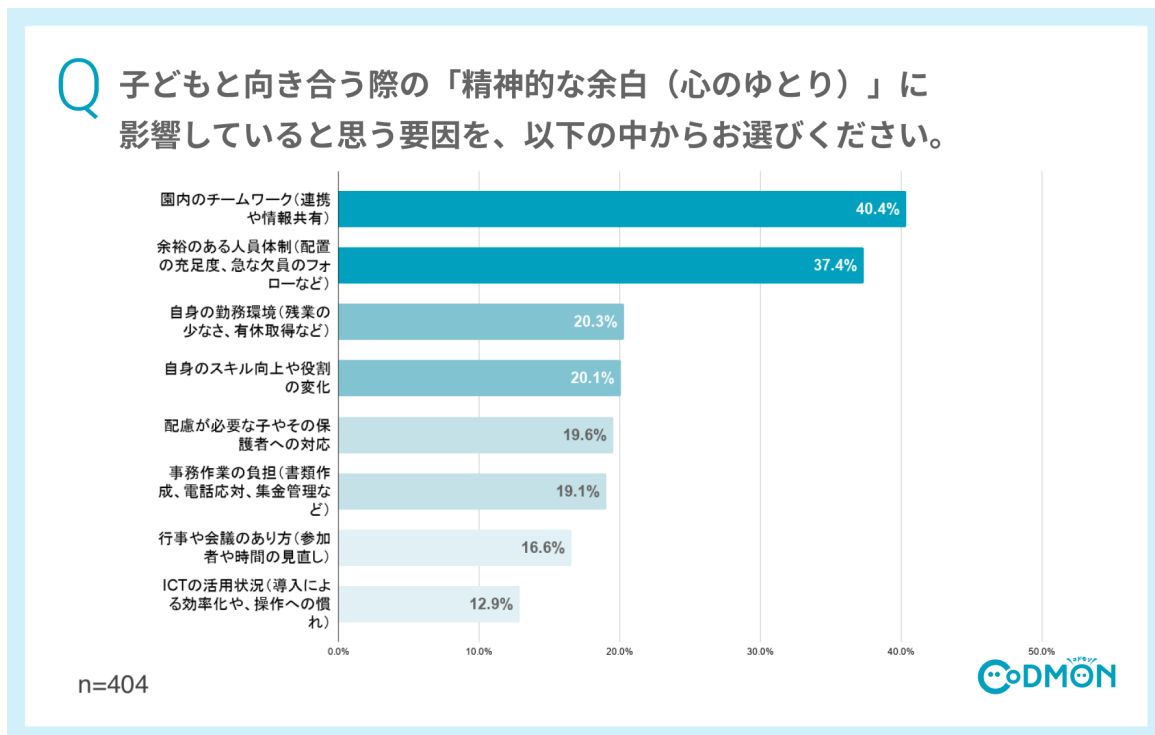
- 1位 | 子どもの行動を急かさずに待つ(20.9%)
- 2位 | 後輩・同僚の相談に乗る(19.6%)
- 3位 | 先生同士で子どもの成長を語り合う(16.9%)
- 3位 | 保護者や家庭の変化に気づく(16.9%)

第三部: 保育者の「ゆとり」要因と必要性

保育者が心のゆとりに影響すると思う要因としては、「チームワーク」や「人員体制」が上位になりました。個人の労働環境についても2割以上の保育者が影響すると回答しましたが、それだけではなく、施設全体の人員体制やチームワークの必要性が求められています。

また、8割以上が「大人のゆとりは子どもの力を引き出すために必要」と回答しており、保育環境の整備が子どもの健全な育ちを支える前提であるという現場の認識が示されました。

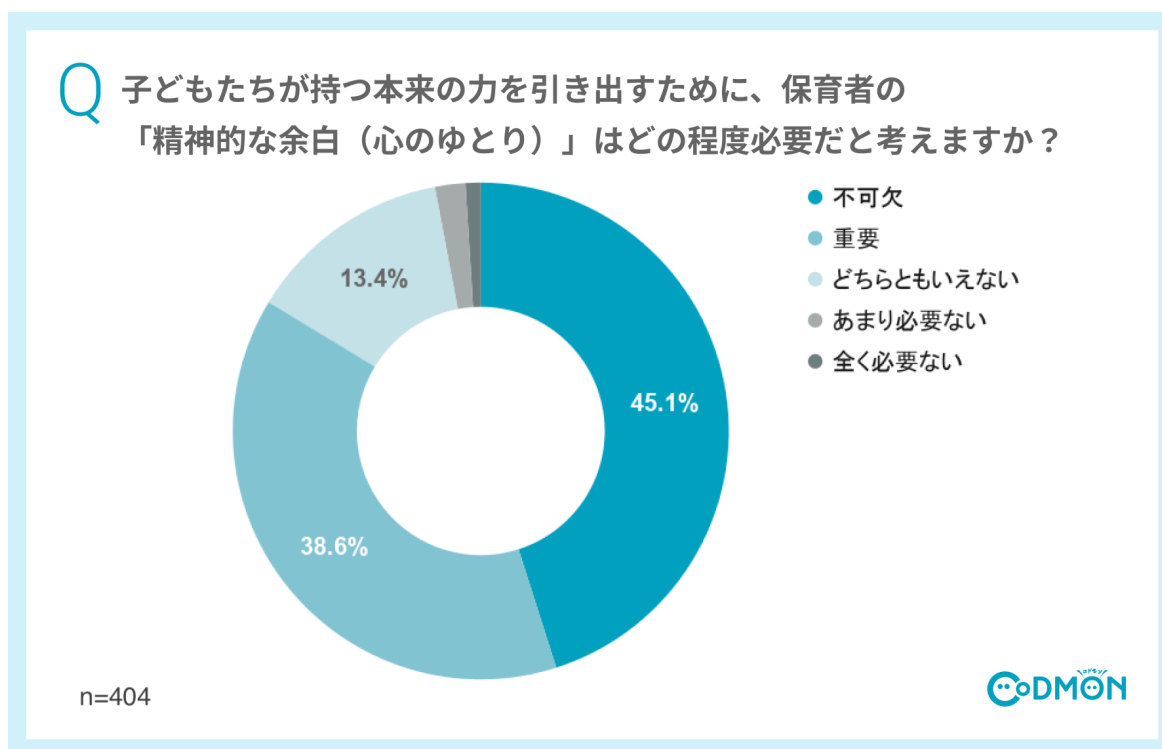
【7】心のゆとりに影響する要因



Q.子どもと向き合う際の「精神的な余白（心のゆとり）」に影響していると思う要因を、以下の中からお選びください。(複数回答)

- 園内のチームワーク(連携や情報共有): **163 (40.4%)**
- 余裕のある人員体制(配置の充足度、急な欠員のフォローなど): **151 (37.4%)**
- 自身の勤務環境(残業の少なさ、有休取得など): **82 (20.3%)**
- 自身のスキル向上や役割の変化: **81 (20.1%)**
- 配慮が必要な子やその保護者への対応: **79 (19.6%)**
- 事務作業の負担(書類作成、電話対応、集金管理など): **77 (19.1%)**
- 行事や会議のあり方(参加者や時間の見直し): **67 (16.6%)**
- ICTの活用状況(導入による効率化や、操作への慣れ): **52 (12.9%)**
- ノンコンタクトタイムの確保状況: 45 (11.1%)
- 安全・衛生管理の徹底度(事故防止の仕組み化): 40 (9.9%)
- 新制度やルール改正への対応状況: 23 (5.7%)
- あてはまるものはない: 14 (3.5%)

【8】子どもの力と保育者の心のゆとりの関係性



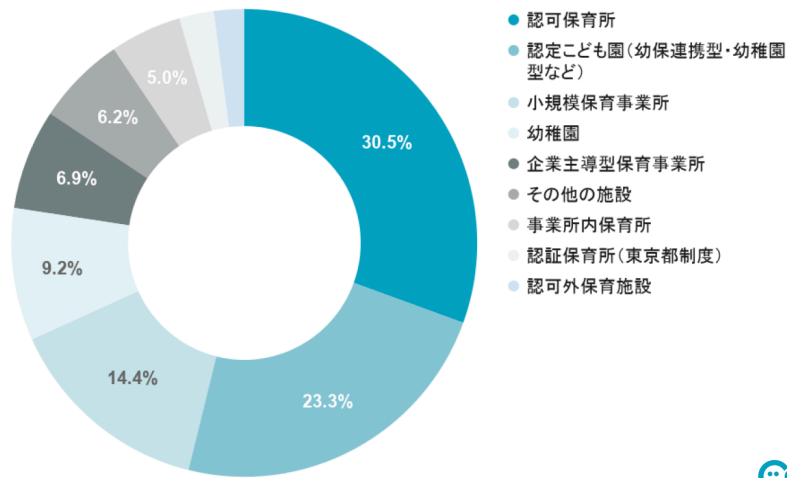
Q.子どもたちが持つ本来の力を引き出すために、保育者の「精神的な余白(心のゆとり)」はどの程度必要だと考えますか？

- 不可欠(成長を左右する最重要な要素だと思う): 182 (45.1%)
- 重要(ある程度の余白は必要だと思う): 156 (38.6%)
- どちらともいえない(他の要因の影響もあると思う): 54 (13.4%)
- あまり必要ない(他の要因の方が影響が大きいと思う): 8 (2.0%)
- 全く必要ない(余白と成長との因果関係はないと思う): 4 (1.0%)

回答者属性

【勤務する保育施設の種別】

Q 勤務している保育施設の種別を教えてください。

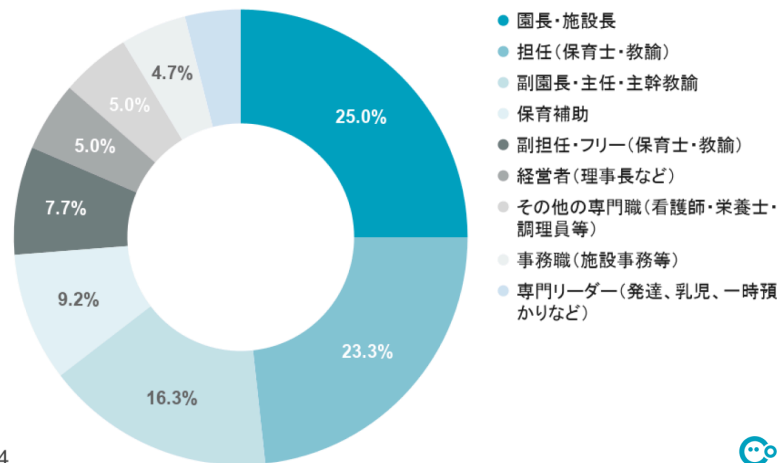


n=404

- 認可保育所: 123 (30.5%)
- 認定こども園(幼保連携型・幼稚園型など): 94 (23.3%)
- 小規模保育事業所: 58 (14.4%)
- 幼稚園: 37 (9.2%)
- 企業主導型保育事業所: 28 (6.9%)
- その他の施設: 25 (6.2%)
- 事業所内保育所: 20 (5.0%)
- 認証保育所(東京都制度): 10 (2.4%)
- 認可外保育施設: 9 (2.1%)

【職位】

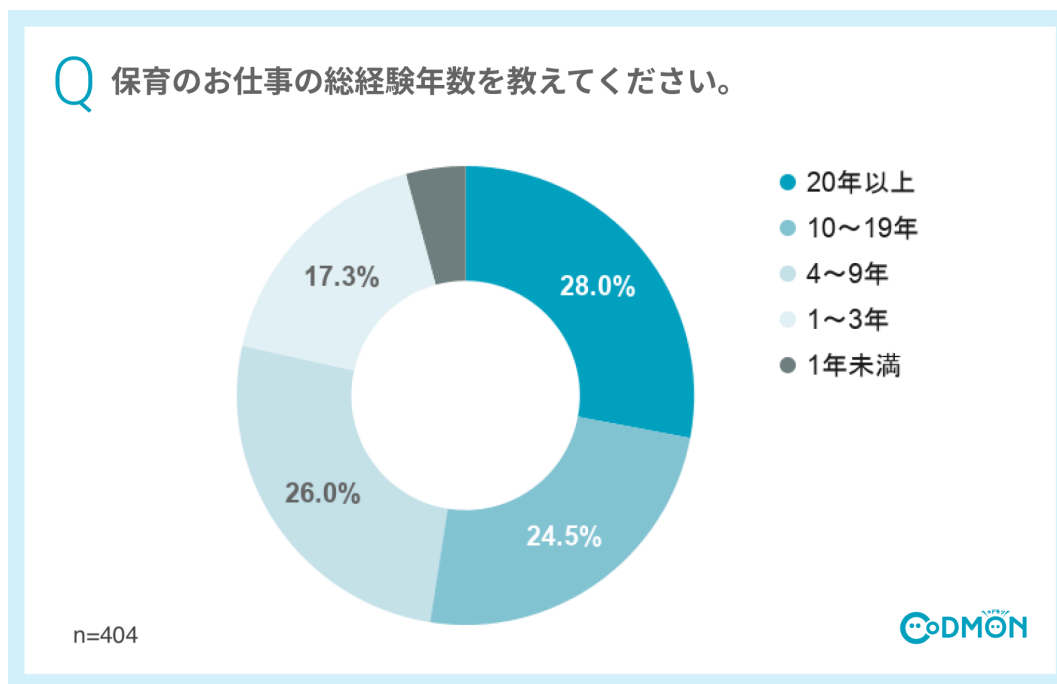
Q 現在のお仕事の立場を教えてください。



n=404

- 園長・施設長: 101 (25.0%)
- 担任(保育士・教諭): 94 (23.3%)
- 副園長・主任・主幹教諭: 66 (16.3%)
- 保育補助: 37 (9.2%)
- 副担任・フリー(保育士・教諭): 31 (7.7%)
- 経営者(理事長など): 20 (5.0%)
- その他の専門職(看護師・栄養士・調理員等): 20 (5.0%)
- 事務職(施設事務等): 19 (4.7%)
- 専門リーダー(発達、乳児、一時預かりなど): 16 (4.0%)

【保育の経験年数】



- 20年以上: 113 (28.0%)
- 10～19年: 99 (24.5%)
- 4～9年: 105 (26.0%)
- 1～3年: 70 (17.3%)
- 1年未満: 17 (4.2%)

■株式会社コドモンについて

株式会社コドモンは、「子どもを取り巻く環境をテクノロジーの力でよりよいものに」というミッションを掲げ、業界シェアNo.1(※2)の保育・教育・療育施設向けICTサービス「CoDMON(コドモン)」を提供しています。園児/児童情報と連動した成長記録や指導案のスマートな記録、登降園管理、保護者とのコミュニケーション支援機能などを通して、先生方の業務負担を省力化します。これにより、こども施設で働く職員と保護者の方々が、子どもたちと向き合うゆとりをもち、より質の高い保育ができる環境づくりを支援しています。

また、ICTによる支援だけでなく、保育施設向けECサービス「コドモンストア」、全てのこども施設職員が利用可能な優待プログラム「せんせいプライム」、保育施設向けオンライン研修プラットフォーム「コドモンカレッジ」も展開しています。これらの多角的な取り組みを通じて、「子どもの育ちや学びを社会全体で支えられる世の中へ」というビジョンの実現を目指します。

※2「SaaS型業務支援システムの導入園調査 2025」株式会社東京商工リサーチ(2026年1月)

【会社概要】

- ◆社名:株式会社コドモン
 - ◆所在地:東京都品川区西五反田八丁目4番13号 五反田JPビルディング10階
 - ◆資本金:6,825万円
 - ◆代表者:代表取締役CEO 小池 義則
 - ◆設立:2018年11月
 - ◆事業内容:保育・教育施設向けICTサービス「コドモン」の運営、写真販売サービスの運営、決済代行サービス、採用支援・園児募集支援事業「ホイシル」、保育施設向けECサイト「コドモンストア」の運営、オンライン研修事業「コドモンカレッジ」、こども施設職員への福利厚生サービス「せんせいプライム」の運営等。
- サービスサイト:<https://www.codmon.com/>
コーポレートサイト:<https://www.codmon.co.jp/>

【お問い合わせ・ご質問等】

株式会社コドモン 広報
press@codmon.co.jp
080-7303-6026／080-4466-6738

【データの引用について】

本資料のグラフや文章は、出典(コドモン「こどものチカラ」実態調査2026)を明記いただければ自由にご利用いただけます。
※事後でも構いませんので、掲載・放送の旨をメール(press@codmon.co.jp)にてご一報いただけますと、広報チーム一同大変励みになります。